

平成30年度学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の導入は順調で生徒にも浸透したが、モチベーションを保つ工夫改善を行う必要がある。 ・成績不振科目数は、指名補習等の取組により1、2年次において減少している。欠点を取らせない丁寧な指導を継続する。 ・生徒手帳と教育計画を一体化した手帳を活用し、学習習慣や学習意欲を向上させ、家庭学習の定着につなげる。 ・高大接続改革を見据えた授業改善を行う必要がある。授業を通して生徒の主体性を引き出し、思考力、判断力、表現力を育成する。 	基礎学力向上のための取組を継続し、学習習慣や学習意欲を向上させ、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けさせる。	<ol style="list-style-type: none"> ①全学年で毎日基礎学力向上のテキストを用いて自学自習の朝学習を10分間実施し、学習習慣を確立する。年12回の確認テスト・振り返りを行う。 ②教務部を中心に年間を通してこれまでの取組(勉強マラソン、部活動勉強会、学習サポーターによる個別支援、授業への取組3割評価、指名補習)を継続し、改善・充実を図る。 ③学年が進路行事等を通して宮高手帳を活用する機会を増やす。 ④「未来を拓く『学び』プロジェクト」研究開発校に応募し、授業改善を推進し、授業研究に組織的に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒が集中して取り組むことができたか。家庭学習時間が増えたか。 ②各学期の成績不振者数が、前年度の2割減以上であったか。また、勉強マラソンへの参加率が前年度を上回ることができたか。 ③宮高手帳を有効活用できたか。 ④主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善がなされているか。授業アンケートで授業の理解度が8割以上。授業がわかりやすいと回答する生徒が8割以上。 	<p>学力向上の取組はほぼ達成した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①朝学習に概ね集中して取り組むことができたのは5割～6割。朝学習は「基礎学力の向上」に役立つと全体の約5割の生徒が回答。休日の家庭学習時間は微増。 ②各学期の成績不振者数は減らせなかった。勉強マラソンに約40%の生徒が参加。昨年度比2割増。 ③手帳を全学年の生徒が持った。活用方法に課題あり。 ④未来学び公開授業には外部の参加者があり学び多い機会となった。授業の理解度は、6割程度が最も多かった。授業がわかりやすいと8割以上の生徒が回答した科目が多かった。 	A	朝学習は生徒に浸透したが、取組に差が出てきている。基礎学力の向上だけではなく朝学習の目的を学校全体で共有していく必要がある。基礎学力向上の取組・欠点を取らない指導を引き続き行う。「主体的対話的深い学び」を引き起こす授業改善をさらに推進する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの丁寧な生徒指導により、落ち着いた学校生活が送れている。 ・遅刻者数の減少が課題である。遅刻者、欠席者は2学期から増加する傾向にある。 ・校内の生徒指導のチーム力を向上させ、個々の生徒の特性に応じた指導を行う必要がある。 ・教育相談体制を充実させることとあわせて保護者との相談や不登校の未然防止に力を入れる。 ・部活動、生徒会の活動を通し生徒の自己肯定感・自己有用感が高められている。部活動、生徒会で活躍している生徒を核にして学校の活性化を図っていく。 ・希望の進路実現とともに生徒に身に付けた知識や技能をこれからの人生や社会に生かそうとする視野をもたせる必要がある。 	校内の生徒指導・教育相談・進路指導のチーム力を向上させ、目的意識・規範意識を持ち、希望の進路実現のために主体的に行動できる生徒を育てる。	<ol style="list-style-type: none"> ①教務部が遅刻・欠席者数の数値を分析・評価することで遅刻・欠席者数を減少させる。 ②生徒への働きかけ、教員の情報共有、保護者との連携を密にし、チーム学校で生徒指導にあたる。 ③保健環境部で年度の早い時期にスクールカウンセラー、巡回支援員等を講師とする研修会を実施する。 ④部活動ミーティングや文化部フェスタなどの生徒の活躍の場を設ける。 ⑤「宮高カリキュラム・マネジメント検討チーム」を発足し生徒の進路実現に繋がる教育課程を検討する。 ⑥進路指導部・学年で連携し、学力上位層のための講座を開講する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①遅刻・欠席者数が、前年度の2割減になったか。 ②チーム学校として年間を通して指導を行うことができたか。 ③研修会を実施できたか。不登校等の未然防止に寄与したか。 ④部活動の定着率が高まったか。 ⑤教育目標を実現するための教育課程の編成が進んだか。 ⑥学力上位層のための講座を実施できたか。参加者数を増やすことができたか。 	<p>生徒の健全な学校生活は概ね達成できている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①欠席者数2割減・遅刻者数3割減。 ②足並みをそろえた指導を実施。生徒指導件数は増加。集団で問題行動を繰り返すことが増えた。 ③早期に研修会を実施。SC、巡回支援員と連携、早期把握・状況把握が行えた。 ④部活動・生徒会に所属し、積極的に活動しているのは約7割。 ⑤「カリ・マネ」講演会を実施。新教育課程を模索し始めた。 ⑥学力上位層の補習を学年ごとに実施。 	B	教職員一丸となって引き続き中途退学者数の減少を目指す。中途退学者を未然に防ぐため目的意識を持たせる指導を継続する。社会に開かれた教育課程を意識し、教科だけではなく、総合的な探究の時間も含めたカリキュラム・マネジメントを行っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域、関係諸機関等の連携が強化され、地域から感謝される機会が増えている。 ・地域の人々の理解・協力を得ながら、ボランティア活動を推進し、生徒の活動をポートフォリオとして蓄積していく必要がある。 ・目的意識を持って受検する志願者が増えて、生徒募集も安定してきているが安心はできない。 ・生徒会、部活動等におけるよい評判や生徒の活躍を情報発信し、小・中学校からの信頼を得て安定的な生徒募集につなげていく。 ・保護者・地域への定期的な情報伝達により、保護者・地域からの理解・協力を得る。 	保護者、地域、関係諸機関との連携を密にし、地域社会における体験的な活動への参加を促進するとともに本校の良さを積極的にアピールし、生徒募集につなげる。	<ol style="list-style-type: none"> ①宮代町の小学校4校・中学校3校、宮代町教委、関係諸機関と学習指導等で連携を強化する。 ②生徒会、委員会、部活動でボランティア活動等に積極的に参加する。 ③中高連携委員会で生徒会、部活動の生徒を動かし、生徒の活躍が見られる学校説明会、広報活動を実施する。 ④学校の情報をHPや「宮高だより」で積極的に発信する。 ⑤5年次研修や「質の高い学校教育の推進事業」を活用し、近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と共に学び合う研修会の機会を作る。 ⑥保護者の各種学校行事・PTA行事への参加案内を積極的に行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①連携した取組が実施できたか。 ②ボランティア活動が増えたか。参加者数が、前年度より増加したか。 ③学校説明会等の参加者数が前年度を上回ったか。本校志願者の9割以上が学校説明会に参加したか。 ④HPのアクセス数が増加したか。 ⑤近隣の小・中・高等学校・特別支援学校と情報共有ができたか。 ⑥行事に参加する保護者数が増えたか。保護者アンケートで高評価を得たか。 	<p>保護者、地域、関係諸機関との連携はほぼ達成できた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①WINWIN事業、宮代竹あかり事業等前年度比連携行事増。埼玉県キャリア教育実践アワード奨励賞を受賞。 ②部活動のボランティア増。参加者数も大幅に増加。 ③学校説明会等の参加者数は徐々に増加し、昨年を上回った。本校志願者の9割以上が学校説明会に参加。 ④部活動のHPの更新が前年度比増加。アクセス数は横ばい。広報誌を地域にも配付。 ⑤近隣の小・中・高等学校・特別支援学校の教員が「質…」「未来学び」に参加。共に研究協議を行った。 ⑥行事に参加する保護者は増加。保護者の学校行事への満足度は100%。 	A	保護者・地域・関係諸機関等の連携の強化により地域から協力を依頼される機会が増え、地域における生徒の活躍の場も増えている。生徒会・部活動の生徒の活躍をHP等で効果的にアピールし、生徒募集につなげることを全教職員で共有していく。

学校関係者評価	実施日 平成31年 2月 8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>朝学習等積極的な取組が行われて、着々と成果が上がってきている。勉強マラソンへの参加者数増など良い傾向と思われる。新しい教育への取組も素晴らしい。進路実績の向上だけでなく夢の実現という視点でも引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>規律ある学校生活は充実した高校生活の基盤と位置づけ全教員で取り組んでいることの一部が、欠席、遅刻、早退数の減少等にも表れているのだと感じる。生徒指導面は時間のかかる取組となるが、今後も粘り強く取り組んでほしい。生徒一人ひとりの意識改革も必要である。</p> <p>校長先生自らが地域に出て関係づくりを積極的に進める様子が伝わってくる。音楽、料理、スポーツ等積極的に地域社会とかかわっていて、小中学生にとっても身近な学校になってきている。地域に愛される学校になってきているのではないかな。町唯一の県立高校としてあらゆる場面で存在感を発揮してほしい。町をはじめとする自治会等と連携した取組をお願いしたい。地域の評判と中学校の先生への情報提供が特に重要だろう。地元の人からは話をきいてまとめて発表したりHPに載せるなどの取組を今後展開するとよいだろう。</p>